

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

新居浜市立中萩小学校 教諭 高橋 正成

1. 単元名 地域の環境守り隊 ―めざせ！エコレンジャー―

2. 単元の目標

- ・身の回りの自然環境や環境問題について理解し、身近なところからできる環境保全の取組について発表資料やポスター等にまとめることができる。 (知識・技能)
- ・校区にある東川や地域の方とのふれあいを通して見聞きしたことや、自分のこれまでの経験をもとに課題を見だし、環境保全のために身近なところからできる取組について考えたり、発表資料やポスター等を通して学校や地域の人たちに伝えたりすることができる。 (思考・判断・表現)
- ・身の回りの自然環境を大切に守っていききたいという目的意識をもち、意欲的に環境問題や環境保全の取組について調べたり、学んだことを発表資料やポスター等にまとめたりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、第2学年の生活科および第3学年の総合的な学習の時間で、学校や校区の魅力について学んだ中でも、児童にとって身近な自然である「東川」を教材として取り上げる。

中萩小学校は、豊かな自然に囲まれた場所に位置しており、東川は学校のすぐ西側を流れているため、児童が毎日目にするほど身近な自然環境である。また、東川にはホタルなどの水生生物が生息しており、夏には「ホタル祭り」という地域の夏祭りも開催され、地域にとっても大切な自然環境の一つである。そのため、実際に東川へ行き、水質や生息する生物を調べたり、川や河川敷の様子を観察したりすることを通して、身の回りの自然環境に愛着を持つことができると考える。

また、環境問題について調べたことと身の回りの自然環境とを関連づけて考えたり、学んだことを工夫してまとめて伝えたりする活動を取り入れる。これらの活動を通して、環境保全のために身近なところからできる取組を自分たちで考え実行したり、学校や地域へと発信したりすることの大切さにも気付かせたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、第3学年において、校区の魅力について調べ、まとめたことを伝える活動をしてきている。その中で、東川やホタル祭りについても取り上げており、校区の魅力の一つだと自覚している様子が見られる。また、放課後や休日などに、家族と共に東川を訪れ、生き物を採集した経験があるという児童も多く、自分たちにとって身近な自然環境だということは理解している。

しかし、東川の環境が誰によってどのように整えられているか理解していなかったり、校区の自然を守るために自分たちが何かしようという意識が低かったりするという課題もある。校区の魅力をこれからも守り続けるためにも、学習を通して身の回りの環境を自分事として考え、学校や地域へと発信しようという意識を高めていきたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず「地域みんなが大切にしていると感じる自然には、どんなものがあるか？」という発問から、第3学年で学んだ校区の魅力について想起させ、学校のすぐそばにある東川へ焦点を当てられるようにする。その後、もし東川が汚れたり荒れたりしたらどう感じるかと児童に聞くことで、誰がどのようにして東川を今のきれいな状態にしているのかという問いへとつなげ、これまでの生活経験から、地域の人により守り続けられていることに気付かせたい。

次に、公民館長や地域の民生委員をゲストティーチャーとして招き、それぞれの活動内容や思いなどについて学ぶ機会を設定する。また、実際に東川へ訪れて、現状の川や周囲の様子を観察や水質調査などを行い、問題点はないか話し合えるようにする。これらのことを通して、児童が地域の一員として自分たちにできることはないかという目的意欲を持たせたい。

そして、毎年6月に行われているホテル祭りを始めとする地域の行事やこれまでの生活経験や学習から、東川の魅力と現状、問題点や今後の提案など、自分の興味・関心に合わせてグループを作ってテーマを設定し、調べ学習を行う。また、調べたことは他の児童や地域住民に伝えられるように、工夫して発表したり記事やポスターにしてまとめたりする。これらのことから、児童が相手意識を持ち、自分の思いを分かりやすく伝えようとする気持ちを高めたい。

さらに、児童同士の話し合いを通して、東川の美化活動やポスター作成など、自分たちにできることはないか考えさせたい。その後、東川の下流の様子や地球全体の環境問題へも目を向けさせることで、自分たちの地域のみならず地球全体の環境を守るためにどんなエコ活動ができるか考え、実践できるようにつなげていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…現在の自然環境は将来の自然環境へとつながっている。そのため、自分や家族が年老いた時に、環境が改善されないままになってしまう可能性があるということ。

公平性…自分たちと同じ世代の人だけが快適に過ごすのではなく、将来の人々のことも考えることが大切だということ。

責任性…東川の中流に住む者として、地域の環境が下流へも影響を与えることを自覚し、地域の一員として、友達や住民と共に環境を守る活動を続けていくことが大切であるということ。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

未来像を予想して計画を立てる力

東川の過去と今の自然環境を比較したり、環境問題について調べたりすることを通して、今の自然環境だけではなくこれからの自然環境について考える力を養う。

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

東川の自然環境の大切さや地域住民の思いについての意見交流を通して、環境を守るために自分たちにできることはないか、アイデアを出すことができる。

他者と協力する態度

友達同士で観察したことや考えたことを比較したり、地域の人々の思いを受けて感じたことを

伝え合ったりすることを通して、友達や地域の人と協力して問題解決に向けて取り組むことができる。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

自分たちだけではなく、将来の人たちも安心して過ごせるまちづくりが大切である。

自然環境、生態系の保全を重視する。(生物多様性の重視)

人間だけが快適に過ごすのではなく、自然環境と共生できる地域になるように努力していく必要がある。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう



4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①東川の現状や変化、抱えている問題点等について理解している。 ②地域住民や関係者の話を聞いたり、自分で調べたり観察したりして分かったことを、言葉や図、絵などを用いて、関係づけながらまとめる技能を身に付けている。	①身近な環境から課題を見出し、人々が安心して自然環境と共生できるまちづくりのための方策を考えることができる。 ②自分たちが学んだり考えたりしたことを、発表資料や掲示、ポスター等を用いて表現している。	①東川の魅力を大切にしながら、意欲的に活動している。 ②東川的环境について学んだことを、学校や地域の人たちに伝えようとしている。 ③地域の一員として、自分にできることはないか模索しようとしている。

5. 単元の指導計画 (全18時間)

次	主な学習活動	学習への支援 (・)	評価 (△) 備考 (・)
1 (3時間)	○ 東川について話し合う。 ・河川敷は通学路になっているね。 ・夏には、ホタルが飛んでいたよ。 ・6月のホタル祭りも楽しいね。 ○ 公民館長や民生委員の話を聞く。 ・地域みんなが大切にしていることが分かったよ。 ・ごみ拾いや草刈りをしている人が	・第3学年での学習を振り返ることで、東川の魅力を改めて思い起させる。 ・話を聞く前に関係者とあらかじめ打合せをして、活動の様子だけでなく、地域の人々の思いなども伝えてもらうようにする。	イ① (思判表) ウ① (主体的)

	<p>いるから、いつもきれいなんだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東川を訪れ、環境調査をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな生き物がいるね。 ・ここにごみが捨てられているよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東川の様子を撮影したり、水質も検査したりすることで、児童が東川の現状をより把握しやすくする。 	
2 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたいテーマごとにグループに分かれ、調べ学習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・今と昔の川の様子が知りたいな。 ・東川のホタルについて調べたい。 ○ 調べたことをもとに、全体で問題点を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・昔と環境が大分変わっているよ。 ・ホタルの数が減り、地域で育てて放流していたらしいよ。 ○ グループごとに発信したい内容を考え、発表資料を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホタルについて発信したいな。 ・ごみを捨てないでほしいね。 ・環境がどう変わったか伝えたい。 ○ 発表資料を用いて、グループごとに発信する。 <ul style="list-style-type: none"> ・東川の環境を守ることが大事だ。 ・みんなにも協力してほしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出た意見をもとにグループピングをすることで、それぞれが課題意識を持って活動できるようにする。 ・全体で問題点を考えることで、様々な視点から物事を考えることの大切さに気付かせる。 ・発表資料は、グループの実態や伝えたい内容、伝える形式などに応じて工夫するように促す。 ・校内掲示や地域の掲示板等を活用して、より多くの地域の人に伝えられるようにする。 	<p>ア① (知・理)</p> <p>ウ① (主体的)</p> <p>ア② (知・理)</p> <p>イ② (思判表)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
3 (7時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境を守るためにできることはなにか話し合い、実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ拾いはできるよね。 ・河川敷も掃除できるんじゃない。 ・ごみ捨て防止のポスターはどう？ ○ 下流の地域や地球全体の環境について、考えを広げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・下流にごみが流れないようにしないといけないね。 ・地球全体のことを考えると、私たちの力だけでは無理だよ。 ・みんなに自然を守ることの大切さを伝えようよ。 ○ 活動の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人がエコ活動していこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や民生委員と連携し、児童が共に地域の環境を守ろうとする意欲を高められるようにする。 ・先輩方の活動について伝えることで、自分たちも思いを引き継いで活動しようとする態度を育む。 ・関係する地域の学校間で連携したり、インターネットや資料を活用して調べたりすることで、児童が目的意識を持って活動できるようにする。 ・次へと活動をつなげていくために、自分たちの思いをまとめておく。 	<p>イ① (思判表)</p> <p>ウ③ (主体的)</p>

